

タックス（ビジネス）・プランニング入門

教授 松 原 有 里

1. 研究内容

皆さんは、ニュースで「●●企業に税務調査が入った」という言葉を目にしたことがありますか？これは意図的な脱税だけでなく、例えば、多国籍企業が、全社利益を企業グループ全体に分散しようとする時に、その企業グループが法人税をわが国に納める際に適用される課税ルールの解釈や、その納税額について、納税者である企業側と国＝課税当局の間で見解が食い違うために、問題になってしまった場合も含まれます。

このように「タックス・プランニング」の成否は、現代企業や人にとって時として死活問題になりえます。そこで、本ゼミナールでは、税務（会計）専門職や公務員に興味のある学生を対象に、1）会計学の基礎、2）所得・法人・相続税の基本的な仕組み、3）国際課税の基礎、4）ビジネス・プランニングとは何か？といった問題に取り組みます。例年、税や会計の実務家を Essentials of Commerce（和泉）、租税法（駿河台）の授業と共催でゲスト講師に招聘するほか、社会科学者として、会計事務所訪問、横浜税関見学、東証見学等を実施していました。また、長期休暇中のゼミ合宿やスポーツ大会、BBQ 等々は任意参加です。

2. ゼミの進め方

≪ 2 年次 ≫

3 名 1 組のグループ発表を中心に進め、春学期は、財務会計の基礎に関する勉強および証券金融・財政学の基礎を学び、秋学期は租税制度の基礎を学ぶ他、ゼミ OB の実務家や海外ゲストの講師陣のお話をオンラインゼミで年に数回、開催します（今年度は、アイルランドと米国、フランスから）。各人が年 2 回の報告を通じて、チームワークや租税/会計の基礎知識およびプレゼン能力を身につけることを目標とします。

≪ 3 年次 ≫

1 名で 1 つのテーマについて単独発表/レポート作成します。研究テーマは年度により異なりますが、今年度は AI と金融やポスト（with）コロナ時代のサプライチェーン、企業買収等を主に勉強しています。また、就職活動の一助として、租税・財政・会計をめぐる時事問題を問うグループ討論でディスカッション能力を磨き、外部講師（Ex.大手監査法人・官公庁・都銀の方など）によるゲスト講義等も実施しています。

≪ 4 年次 ≫

個別指導が中心ですが、各人の進路およびこれまでの大学生活で学んだことの総括として、例年、企業結合に伴う税務・会計上の諸問題および国地方間の財政問題について研究しています。卒論作成は任意です。

3. 教 材

2 年生『図説日本の税制』（財経詳報社）・『財務会計・入門』（有斐閣）

3 年生『租税法演習ノート』（弘文堂）・『国際租税法』（東京大学出版会）（予定）

4. 成績評価の方法

ゼミへの出席および発言内容を重視します。2 年生は年 2 回の発表、3、4 年生は年 1 回の発表およびレポート提出が単位取得の要件となります。卒論は任意ですが、将来大学院進学を考える場合は必須です。

5. ゼミ入室試験（選考方法）

ES の内容とオンライン面接が原則ですが、応募人数が多い場合、簡単な一般教養試験も出します。

6. その他・志願者へのメッセージなど

よく学び、よく遊ぶゼミをめざして、メリハリはきちんとつけたいと思います。担当教員は、これまで日欧 4 カ国で計 5 つの大学を渡り歩きましたが、そこで広めた雑学・見聞や多少のことでは動じない交渉術は、きちんと伝授していくつもりです。また、皆さんへのメッセージとして、新しい知識の吸収に貪欲であることや外国語に触れるのに怖がらないこと、人との約束は守ることを付け加えます。教員としては、日々成長していく皆さんと触れ合うのが何より楽しみです。また、歴代のゼミ生は、好奇心旺盛かつ自発的に勉強する人が多いのも特徴です。それでは、1～11 期生 250 名弱と共にやる気のある皆さんをお待ちしています。